

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
江原 一浩

教育の責任

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
コミュニケーション英文法	1-2	50	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
初級リーディング	1-2	40	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
中級リーディング	2-4	5	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
英検 I	1-4	15	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
英検 II	1-4	15	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
TOEIC	2-4	40	講義	選択	総合教養科目群 外国語科目
Basic Skills for TOEIC A	2-4	40	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
グローバルコミュニケーション演習 E1 (地域コミュニケーション E1)	3	10	講・演	必修	専門発展科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
グローバルコミュニケーション演習 E1 (地域コミュニケーション E2)	3	10	講・演	必修	専門発展科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
卒業研究	4	3	演習	選択	卒業研究
教職概論	1	10	講義	選択	進路支援科目群 資格科目 (教職に関する科目)

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

教育の理念

言語学習は、知識の蓄積や言語操作の正確性のみならず重点を置くものではなく、言語は世界を知る窓であり、相手を理解し自分を表現するコミュニケーションの手段であるという認識を高めると同時に、言語使用の機会を保障し、学習者に体験的に実感させることが必要である。自然言語の技術習得順（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）に基づいて言語活動を系統的に展開し、また、4技能5領域を網羅し、複数の言語活動を関連づけ、活動の難易度を漸進的に高めて、総合的、統合的、段階的に展開させることで、言語習得がより効果的に促進すると考える。さらに、英語を使用する必然性や必要性を感じる適切な場面を提供し、学習が主体的、協働的、協調的に進められる環境を整えた上で活動を展開することが必要である。

教育の方法

コミュニケーション英文法や初級・中級リーディングでは、Oral Method、PCPP（内容中心第二言語教授法（PPP）+ Comprehension（理解活動））、二重符号化理論、心的表象、板書計

画という英語教授法や理論、また、指導技術に基づいて授業を展開している。新教材導入では、**Oral Introduction** を用い、教師が生きたインプット源となり、関連する視覚資料を駆使し、話題についての興味関心を抱かせたり、背景知識を提供したりしながら、既習語句や表現を用いて、生徒とのやり取りを重ねて、題材内容を生徒に理解させる支援を行っている。導入後、新教材の内容理解のために、学習者とテキストとの間で意味交渉が展開される課題を設定し、主体的に自らの考えや意見を構築できるような指導を行っている。各単元のまとめ活動では、学習した内容について、関連する視覚資料を参照しつつ、学んだ言語材料や語句と共に、習得した表現を用いて文字による要約、口頭での発表活動（再生・再話）が行えるように導いている。3年次の演習では、通訳ガイドの現場の様子を観察・研究するために、インバンドの旅行者を対象とする英語ツアーに参加し、その後、実践練習として、学内の施設や近隣の施設について英語による模擬ガイドを行い、その後、観点別に自己省察と共に相互評価を行った。

教育の成果 および 今後の目標

コミュニケーション英文法、初級・中級リーディング、及び演習では、学習の最終目的として、文字による要約活動やパワーポイントを利用した発表活動を繰り返し行うことで、自分の意見を表出することに慣れ、人前に立ち自らの言葉で語ることに對する違和感や緊張感が薄れ、主体的・積極的に活動に参加するようになった（参考資料1、2、3）。また、要約活動も発表活動も授業外での課題として設定しているため、復習・予習の時間を確保できた。単元終了時に毎回課題を提出させ、翌週にフィードバックを添えて返却することで、文字によるコミュニケーションを図った。その結果、授業に対する姿勢がより前向きになった（参考資料4）。

参考資料

- 1 パワーポイントを利用した発表資料（非公開）
- 2 研究ノート 江原一浩（2018）. コミュニケーション能力育成を目指した言語活動を支える板書計画 筑波学院大学紀要 13集
- 3 模擬ガイドを記録したビデオ映像（非公開）
- 4 ワークシート（非公開）